



誰も弱音を吐かなかった油山登山

例年5月末に実施していた年長の油山登山を秋に変更し、去る10日(木)に実施しました。運動会に続いての絶好の山登り日和で、元気よく幼稚園を出発しました。バスの中ではクイズをするグループ、しりとりをするグループがあり、約45分のバスの旅を楽しみました。私の近くに座っていた子どもたちは、進入禁止のマークや駐車禁止、歩行者と自転車優先などの交通標識に詳しく驚きました。私の幼稚園時代は、十分に交通が発達していなかったため、交通標識も少なく、どんな交通標識があったか全く記憶にありません。それにしても本園の子どもたちは、特定の分野に興味と素晴らしい知識を持っています。

油山登りは、いつものコースで、展望台や事務所までの九十九折りの車道を最短距離で分断するような遊歩道を登っていきます。約1時間の山登りのコースで、5~6歳児にしては、かなり抵抗のある山といえるかもしれません。

しかし、今年の子どもたちは10月実施ということから5月末に比べると、夏休みや運動会を経験したことで、体力や忍耐力がついたのでしょうか、弱音を吐く人が一人もいませんでした。わずか4カ月ですが、子どもにとっては大きな成長といえます。途中、40段、50段の石段のところへ来ると、これまではへばって「あとどのくらい?」「まあだー?」と弱音を吐いていましたが、今年は違いました。大きな声を上げ、「34, 35, 36・・・」と石段を数え、きつきなんかどこ吹く風でした。「56段あったよ!」「正解!」逆に、楽しみながら登りました。

昼食後も、疲れなんかを吹き飛ばし、引率の先生や実習生と走り回り、元気いっぱいでした。

こんな子どもたちの姿を見て、年間行事や活動内容、実施時期など、これまでの伝統にとらわれず、改めて考え直した方がよいかと思いました。



フロの演技に大興奮

子どもたちは、劇団「道化」によるショーを楽しみました。劇団員わずか3人でのパフォーマンスでしたが、声色を変えて一人二役したり、いくつもの道具を一人で操ったりして、まるで、何人もの人が出演しているように工夫していました。イントロの3人での鬼ごっこでは、子どもたちは、「あっち、あっち」「こっち、こっち」と指さして逃げた方向を教え、自分たちが参加しているような興奮ぶりでした。

簡単な座布団1枚を使った「何ができるかな?」では、座布団を折り曲げたり重ねたりして、赤ちゃんを抱いた格好や象の耳の格好など、ちょっとしたアイデアで子どもたちを楽しませていました。子どもたちの素早い反応も良かったようです。

簡単な小道具で、子どもを楽しませることができるのは、さすがプロの技です。劇団員のパフォーマンスを見ながら、本園の職員は、きっと誕生会の出し物として取り入れるのではないかと密かに期待しています。

メインは、子どもたちがよく知っている「3匹のこぶた」です。子どもたちの反応(驚きの声)を取り入れ、アドリブいっぱいの劇でした。大人から見ると、単純な動作や仕掛けのように見えても、子どもたちにとっては、物語の世界です。この物語の世界に、すんなりと入り込ませるといえるのは、プロの技でしょうか。日ごろからの鍛錬と工夫があってこそだと思います。それにしても、子どもたちのあの興奮ぶりには驚きました。話の世界にすっかり入り込み、役になりきり、劇団員の方と一体化した感じでした。毎年観劇会を催していますが、これほど話に入り込んだのは初めてではないでしょうか。

劇団の方も、「これほどまでに反応して楽しんでくれたのは初めてです。やっている方も楽しくて、やりがいがありました。」と、汗びっしょりでやり切った感じで答えておられました。来年度が楽しみです。



【劇団道化のホームページより】